

南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報

(急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

第 35 週 2025 年 8 月 25 日 ~ 2025 年 8 月 31 日

今週のコメント

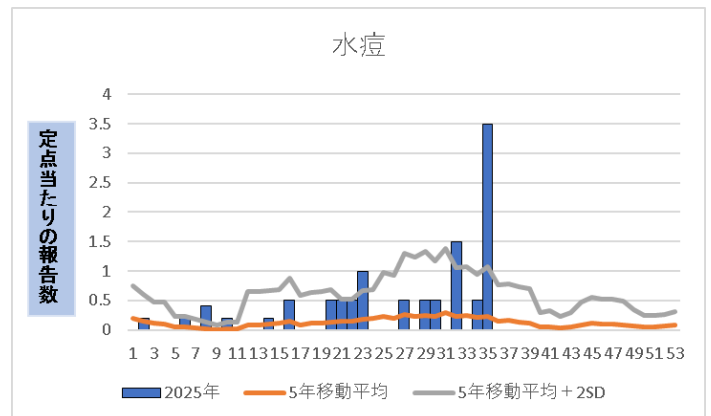
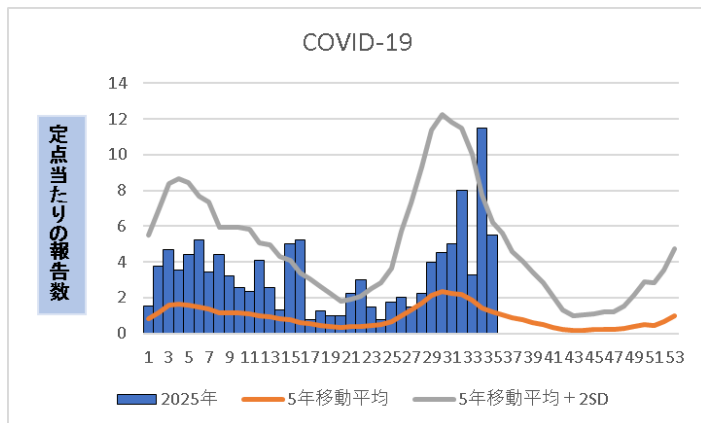
南丹保健所管内では、**水痘**が**警報レベル**になりました。

京都府全体(京都市以外)では、**伝染性紅斑(リンゴ病)**が**警報レベル継続中**です。

2025 年第 35 週の報告です。

- 新型コロナウイルス感染症の定点当たりの報告数は南丹 5.50(前週 11.50)、京都府 8.31(前週 9.80)となっています。
 - 水痘の定点あたりの報告数は南丹 3.50(前週 0.50)、京都府 0.35(前週 0.40)となっています。
 - 手足口病の定点あたりの報告数は南丹 1.50(前週 0.00)、京都府 0.35(前週 0.43)となっています。
 - 全国的に百日咳(全数報告疾患)の流行が継続しており、府内でも報告が続いています。第 35 週においては南丹保健所管内で 0 件(前週 1 件)、府内で 19 件(前週 22 件)報告されました。長引く咳には注意し、乳幼児は予防接種を確実に行いましょう。
- 京都府の百日咳に関する情報は[こちら](#)を確認して下さい。
百日咳に関する情報は[こちら](#)を確認して下さい。

今週のグラフ (下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています)



※横軸は週数 縦軸は定点あたりの報告数を示しています

- 『5 年移動平均』は、過去 5 年間の平均値の変化を表しています。
- 『5 年移動平均+2SD』は、過去 5 年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約 95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

水痘とは…

水痘帯状疱疹ウイルスの感染によって発症する発疹性の病気です。空気感染、飛沫感染、接触感染することによって広がります。症状は、発疹の発現する前から発熱が認められ、典型的な症例では、発疹は紅斑(皮膚の表面が赤くなること)から始まり、水疱、膿疱(粘度のある液体が含まれる水疱)を経て痂皮化(かさぶたになること)して治癒するとされています。

水痘は主に小児の病気ですが、9 歳以下での発症が90%以上を占めるといわれています。しかし、ワクチン未接種の妊婦が罹患すると妊婦地震の重症化リスクが高いことに加え、胎児が先天性水痘症候群を発症することもあります。水痘はワクチンを1回接種することで重症化をほぼ100%予防することができ、2回目の接種で軽症の水痘も含めてその発症を予防することができると考えられています。

水痘についてより詳しく知りたい方はこちらのページもご覧ください。

[水痘\(厚生労働省\)](#)

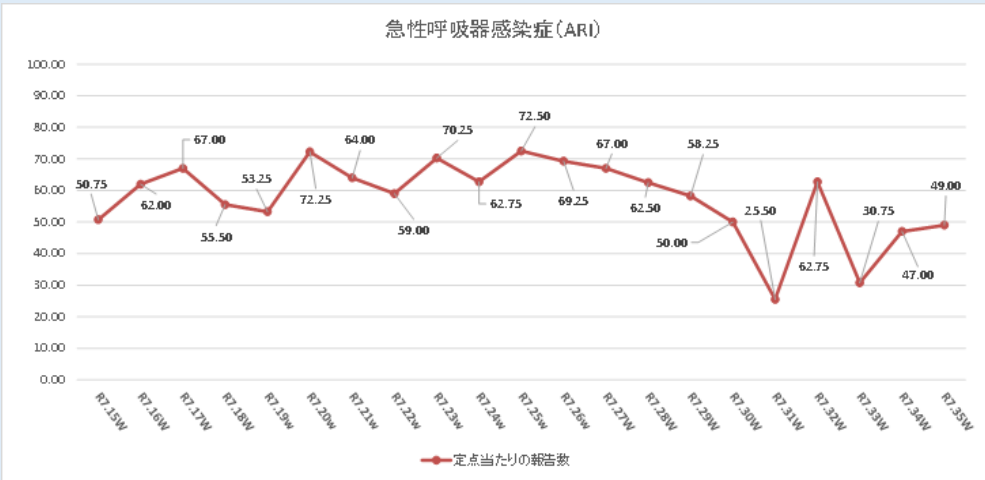
各定点把握疾患 発生状況(南丹管内)

	警報レベル		注意報	R7.35w		前週定点 (参考)
	開始	終息		定点当たり 報告数	前週比	
インフルエンザ	30	10	10(流行1)	0.00	→	0.00
新型コロナウイルス感染症				5.50	↘	11.50
RSウイルス感染症				0.00	↘	0.50
咽頭結膜熱	3	1		0.00	→	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4		1.00	↘	2.50
感染性胃腸炎	20	12		0.50	↘	2.00
水痘	2	1	1	3.50	↗	0.50
手足口病	5	2		1.50	↗	0.00
伝染性紅斑	2	1		1.00	↘	1.50
突発性発しん				0.00	↘	0.50
ヘルパンギーナ	6	2		0.00	↘	0.50
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	→	0.00
急性出血性結膜炎	1	0.1		0.00	→	0.00
流行性角結膜炎	8	4		0.00	→	0.00

急性呼吸器感染症(ARI)について

急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

南丹保健所管内第 35 週報告数は 196 件(定点当たりの報告数:49.00)でした。[京都府の情報はこちら](#)



最新情報は下記のリンク先でご確認ください(関連リンク)

・[京都府感染症情報センター](#)

更新時期: (原則) 毎週木曜日 14 時 前週分の状況を更新

・[感染症の情報\(国立感染症研究所\)](#)